平成 29 年度エコ発する事業評価委員会　議事録

日時：平成 29 年 5 月 25 日（木）　9：30～11：50
場所：福岡市役所本庁舎 9Ｆ　特別会議室２
出席者：エコ発する事業評価委員会 5 名〔松藤会長，久留委員，松岡委員，薛委員，花田委員〕
　　発表団体　４団体　※外３団体については，事務局より申請内容について説明
　　事務局　　４名

■会長の互選

評価委員会設置要綱第５条第２項に基づいた互選の結果，会長は松藤委員に決定。
評価委員会設置要綱第５条第４項に基づき，松藤会長が指名し，久留委員に決定。

■事務局説明

エコ発する事業補助金交付要綱改正について説明。申請団体の経験や構成年齢によりビギナー，Ｕ-30，スッテプアップの３区分に分け，団体の状況に応じた支援が行えるよう改めた。

■申請事業の評価

◆申請団体による事業計画の説明（1 団体 15 分：発表７分，質疑応答８分）

以下，質疑応答内容〔Ａ：委員，Ｂ：団体〕

１．特定非営利活動法人　はかた夢松原の会

Ａ：ごみの削減効果が分かるデータを提示してほしい。また，活動場所を広げているが，その場所を選んだ理由は。
Ｂ：警固公園にカフェができており，利用者が飲み物を持ち歩き，ごみとして捨てるのではないかということで選んだ。これまでの活動で，違法駐輪がなくなるなど成果が出ている。しかし，減った違法駐輪がどこへ行ったのか気になる所である。そこで，脇道の違法駐輪車数の調査や，区への駐輪場利用状況の聞きとり調査等で把握したい。
Ａ：環境学習は広く一般市民も参加するのか。
Ｂ：花植，清掃活動と同日に行い，一般市民も参加する。
Ａ：今後も活動を継続するには，地域の理解や商店街，企業からの協力が必要だと思うが。
Ｂ：花代を企業に負担してもらうことはあるが，より広げていきたい。写真入りの絵葉書を使って自分達の活動を PR するとともに，企業等へ協力を依頼するツールとして使っていきたい。

２．まほろば自然学校

Ａ：環境教育の場として，動物園ではなく，植物園を選んだ理由は。
Ｂ：植物園のイベントは，年配者向けの企画ばかりだったところ，昨年度，植物園から子ども向けの企画を実施できないかというお話を頂いたのがきっかけである。

Ａ：エコ発する事業の趣旨からすると，単なる自然観察会というだけではなく，学習に環境の視点を入れてほしい。例えば，PM2.5 によって植物が弱るなど，環境に変化が起こっていることを子どもたちに教える等。

Ｂ：今年度は顕微鏡を使っての活動も考えているので，その中で，植物が空気の汚れを循環させてきれいにすることなどを教え，より環境に踏み込んだ学習にしていければと思う。

Ａ：事業の性質上仕方ないとは思うが，25 名という限られた範囲が対象ということが気になる。エコ発する事業の趣旨からすると，せめて参加する子どもが市内全域に分布してほしい。

Ｂ：25 名の子どもたちに密に学んでもらうようになっているが，最後の発表会で，参加者の友人など 100 名を超える子どもや保護者に参加いただいている。また，今後は様々な場所に活動を広げていきたいと思う。

Ａ：植物園には管理者がおり，植物の手入れが行き届いているので，一番良い状態の植物を観察することになるが，子どもたちには，植物は手塩にかけて世話をしないと育たないということや，植物の多様性なども体験させてほしい。例えば，夏休みに特別講座等を企画し，より多くの子ども達を集められないか。

３．水と緑の楽校

Ａ：支出の面で，印刷費の割合が高いが，どのようなものに費用がかかるのか。

Ｂ：川の環境学習で使える教材を作り，それをもとに子供たちに学んでもらいたい。活動をした 1 日だけではなく，継続して学んでもらうために，ある程度の部数を印刷して，子ども達に配布したい。

Ａ：やはり，印刷費の割合が高いので，費用対効果を考えて，工夫してほしい。

Ｂ：今までも，学生と教材を制作したことがあるが，自分たちで制作したものだと，どうしても素人感が出てしまい，捨てられてしまいがちである。だから，デザインをしっかり作って，長く使ってもらえるようなものにしたい。

Ａ：今までの活動拠点は樋井川が中心だったが，市内全域に拡大されているのはなぜか。逆に，樋井川を拠点とし，イベントなど実施して，市内の方々に樋井川に来てもらうというような戦略はないのか。

Ｂ：自分たちが樋井川で主催しているイベントで，大きいものはない。ただ，城南区や地域の方々と連携し，樋井川を城南区の目玉としていくにはどうしたらいいかということは，考えつつある。具体的な部分については，これから考えていかなければならない。

Ａ：高齢者の方は，どのような方々が活動に参画されているのか。現在，老人クラブの活性化が求められているので，そういったところも巻き込んでいければ。

Ｂ：組織に関わっておらず，孤独にしていらっしゃる方を引き込んでいければと思っている。

Ａ：ぜひ行っていただきたい。

４．どんぐりのぼうしの会

Ａ：今回，活動場所として６箇所予定しているが，そこを選んだ理由は。

Ｂ：会員で話し合い，自分たちが行きたいところを選んだ。

Ａ：グリーン基金をもらったとのことだが，それは今年度か。また，金額は。

Ｂ：昨年度５万円いただいた。

Ａ：参加者の募集はどのように行っているのか。

Ｂ：自分達でチラシを作り，市民センター・図書館・歯医者・学校などに配布している。

Ａ：昨年度までは活動場所を南区に限定していたが，今年度より市全体に広げるということなので，募集も市全体に行うのか。

Ｂ：その通り。リピーターも含めて人数が増えることを期待している。

Ａ：参加者への保険はかけているのか。

Ｂ：かけている。

Ａ：環境について学ぶ入口として，自然観察会を実施することは良いと思うが，エコ発する事業の補助金を受けるとしたら，もう少し，環境問題について考えるような視点を入れてほしい。

Ｂ：今年度は，月１回会員の勉強会を実施予定なので，そこでそういった視点も取り入れながら活動したいと思う。

◆事務局より外３団体の申請内容について説明

以下，質疑応答内容〔Ａ：委員，Ｂ：事務局〕

Ａ：ふくおかFUNの映像制作の委託について，エコ発する事業補助金では，主たる活動の委託は禁止であると思うが，それには該当しないということでよろしいか。

Ｂ：補助金の中での割合は高いが，映像に使う写真や動画は団体で撮影し，編集についてのみの委託であるということと，また，自分たちの活動を広げていく中の，あくまで手段として使われるということなので，該当しないと考える。金額については，事務局の方で精査させていただきたい。

Ａ：昨年度作った動画は委託で制作したものなのか，それとも自主制作なのか。

Ｂ：委託制作である。

Ａ：どういったところで流すのか。

Ｂ：学校や公民館，写真展など活動全般で流す。

Ａ：動画のコンセプトは。

Ｂ：ふくおかの海がどのような状況なのかを知ってもらう。例えば，色んな生きものがいるということや，ごみもあるという博多湾の現実を映す。

Ａ：著作権の関係で，市でも使えるようにしては。

Ｂ：団体と協議し，検討したい。

◆委員による評価

（以下，福岡市情報公開条例第７条第４号により非公開）